

## 聖隷こども園こうのとり富丘

### 【教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

\*愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

\*一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。

\*自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

\*在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

### 【施設目標】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

### 【2023年度の重点目標】

- ・施設目標に基づいた保育研究や見合う保育の保育実践を行い、保育の質を高める。園の子どもたち一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることをお互いに認め合って過ごすことができるよう、教育・保育の環境を整える。
- ・全体的な計画の重点目標の一つである『統合保育・多文化保育を通じた人権を大切に作る保育』に着目し、こども園・児童発達支援・訪問看護を併設する園として、「教育・保育・療育・看護ケア」を生かし、保育を展開していく。
- ・多職種の職員が務める施設として、お互いの専門性を取り入れながら、保育の質を高める。

評価項目別の達成及び課題状況項目	自己評価・課題
第3章 保育の内容 5. 障がいのある子どもの保育 6. 子どもの人権	障がいのある子の特性に合わせ、個別支援計画を立てて保育を行っているが、障がいについてもっと知識を深めたいと感じている職員が多い。 障がいの有無にかかわらず、子どもたち自身がお互いに相手の存在を大切に思うことができるように、職員が愛をもって寄り添うことを意識し、保育にあたっている。聖隷こうのとり富丘は、発達支援事業所を併設していることもあり、障がいを持つ子どもについて、意見交換をしたり、学びを深めたりすることができることが強みである。今後は、専門的な意見も取り入れながら、定期的に話し合いの場(3事業プロジェクト)を持つことで、より職員の学びや知識を深められると考える。 子どもの人権に関しては、一人の人間としてか

	<p>かわることの大切さを感じている職員が多く、特に性差への偏見への配慮は十分に行えていると振り返る。今後も、子ども自身がどんな自分でも受け止められ、認められているという思いや愛される存在であることを認識できるような関わりができるよう、職員同士で言葉がけ等を見合いながら、子どもの人権に配慮していく。</p>
<p>第4章 保育の計画及び評価 3. 保育の内容の自己評価</p>	<p>自分自身の保育の課題を客観的に見つけることが苦手であると感じている職員が多い。保育士リーダーや目標参画等、自己の保育の振り返りができるシステムを有効に使い、園全体でよりよい保育を目指していけるよう努める。</p>